

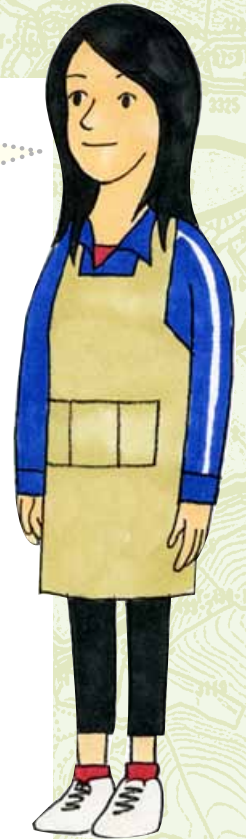


安元 稔さん (69歳)  
山口県 農業

**当** 地は瀬戸内海の島ですが、狭隘な地形のなかで、ミカンを中心に農地が維持されてきました。一部水田もあるが規模の拡大はさして期待できません。もともと第2種兼業農家が多く、農業だけでは子弟の教育に十分な所得が確保できない土地に「強い農業」という言葉はなじみません。

**協**

力金の説明はありましたが、詳しいことはまだよくわかりません。わが家ではいまのところ農地を貸す予定も借りる予定もありませんので、あまり深い関心はありません。



藤枝美里さん (32歳)  
秋田県 農業

# 「人・農地プラン」 について思うこと

読者や取材先の方に率直なところを聞いてみました。

**農** 村の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などの問題を解決するために国が対策を行なうことはよいことだと思います。ただ、**高齢農家や小規模農家には厳しい対策**と思います。たとえば、「農地集積のための総合的な対策」では、農地の「出し手」に「農地集積協力金」としておカネが支払われることになっています。おカネで農地を集約するだけでは高齢農家の経験や知識が失われたり、地域のつながりが薄れてしまったり、結果的に農村が衰退してしまうのではないかと思います。もっと高齢農家や小規模農家にやさしい対策が必要だと思っています。



松下耕平さん (26歳)  
大阪府 J A職員



板橋 大さん (32歳)  
福島県 農業

**県** から「青年就農給付金の対象者だから」という連絡をいただいたので、期待もし、土地の貸し借り関係などの書類も整理して、役所に相談に行きましたが、**結論としてはあきらめました**。支給の条件として、「人・農地プラン」を集落で立てなければならぬ、というのがネックになりました。うちは50戸くらいの集落ですが、過疎化が進行している地域で専業農家は1軒もないし、集落営農組織をつくるという話も出ていません。そういう地域で私が言いだしてプランを立てるというのは無理な話です。私はUターンですが、親は農業をやっていませんでしたし、昨年田畑あわせて5反で有機農業をはじめたばかりですから……。でも、同じ市内の平場のほうで農業をはじめた人には給付金が出ると聞きました。同じ新規就農者なのに、住んでいる集落の条件のちがいで給付金が出たり出なかったりするの、ちょっと不公平ではないかと思うのですが……。

➤ 笹間地区では、「人・農地プラン」が出される前から、独自の「水田農業再生ビジョン」で、30ヘクタール×50経営体、計1500ヘクタールをめざしてきました。しかし昨年8月のアンケートで「小規模でも農業を続けたい」という方が2割出てきたのでその意向を尊重し、30ヘクタール×40経営体、1200ヘクタールに修正しました。この目標に向かって「人・農地プラン」の具体的な話し合いをスタートします。

→ 57ページの記事参照



大和章利さん (64歳)  
岩手県 生産協業組合長



**仮** に国が目標としているように30ヘクタール規模の農家を育成したとして、うちの集落は3軒の農家でまかなえることになります。いままで**70軒あった農家のうち67軒は必要なくなる**。その67軒が勤めだけで生計を立てなければならぬとしたら、いまのサラリーを1.5倍くらいにしないとやっていけないことになる。農業だけを効率よい仕組みにしても、抜けた人間は農業以外でどうやって生計を立てるのか。そこまでフォローしないと一方通行の仕組みになりますよね。それじゃあ農家も農村も考えてなくて、日本農業のことだけを考えている仕組みだと思っんですよ。

→ 36ページの記事参照

**自** 然的に人がくたびれりや、農地は集まるんよ。まだくたびれん現役のときに無理に集めるから問題が出る。集積は、**補助金でどうこうすることはない**とわしは思うとる。

↓ 32ページの記事参照

糸賀盛人さん (64歳)  
島根県 農事組合法人代表

近田利樹さん (54歳)  
宮城県 農事組合法人代表理事

